

森山 泰太郎(もりやま・たいたろう)

1、プロフィール

民俗学者。青森県民俗学先達の仕事をより進め、研究の成果をまとめる。手堅い研究は深い郷土愛に根ざし、学界の定評を得た。東奥賞、県文化賞、地域文化功労表彰受賞。

<生没>

1915(大正4)年8月20日～2003(平成15)年3月28日

<代表作>

民俗記録『砂子瀬物語』『日本の民族 青森』『野沢如洋伝』『陸奥の伝説』
エッセイ集『北のフオクロア』

<青森との関わり>

弘前市生まれ。青森県立青森北高等学校校長。長年にわたり本県の民俗研究に尽くした。

2、作家解説

旧制弘前中学校から国学院大学に進み昭和12年卒業。

中学時代、柳田国男の「雪国の春」を読み感動、さらに折口信夫に心酔、民俗学研究を志す。

大学では郷土研究会に籍をおき、あこがれの折口信夫に民俗学の課外講義をうけ、柳田国男の講演から新しい学問の世界に目を開かれる。

大学卒業後、東京で教職につくが応召、終戦を中国広東郊外で迎える。昭和22年帰郷、県立弘前高女に就職、以降県内高校教育に尽力。

昭和25年、内地留学を機に財団法人民俗学研究所の研究員となり、柳田国男のもとで研究の日々をおくる。

昭和37年「陸奥新報」連載の「津軽の民俗」を昭和41年に『郷土を科学する／1』として陸奥新報社から出版。これより先、中津軽郡西目屋村砂子瀬がダムに

水没する直前に総合調査に参加、その民俗採集をまとめた『砂子瀬の話』(ガリ版刷り 76 ページ 50 部)が柳田国男に激賞される。これを増補出版したのが『砂子瀬物語』(昭和 43 年刊 津軽書房)である。採集項目 414 話から成る多面にわたる詳細な聞き書きで、資料的にも貴重。その文学的な筆致は柳田国男の「遠野物語」を思わせて感動を呼ぶ。平成 3 年『日本民俗文化資料集成』(三一書房)第 2 巻に所収され、その真価を高めた。

昭和 37 年文化庁の全国民俗資料緊急調査に調査員として 10 年間、全県下にわたる調査を担当。この調査をもとに『2日本の民俗 青森』(全 47 巻 第一法規)をまとめる。多数の資料写真と要領をえた解説で県民の心のふるさとを知ることができる。この年長年にわたり本県の民俗研究に尽くした功績により第 25 回東奥賞受賞。

昭和 49 年『野沢如洋伝』(野沢如洋顕彰会)出版。昭和 50 年の『なつかしの弘前一庶民の歴史』(東奥日報社)では「大正編」を担当、のびやかな文体、生き生きとした語り口で読ませる。

昭和 51 年『陸奥の伝説』(第一法規)を上梓、県内の伝説を 386 項に分類収録。平成 3 年、これまで新聞、雑誌などに発表したものを 1 冊にまとめた『北のフオクロア』(北方新社)を出版。民間伝承を平易に解説している。

県立青森北高等学校長退任後、東北女子大学教授。教職のかたわら、青森県文化財保護審議会委員、弘前市文化財審議委員、日本民俗学会評議員等を務めた。

昭和 55 年、多年の民俗研究の業績により県文化賞、昭和 59 年、地域文化功表彰を受賞した。

3、資料紹介

○『砂子瀬物語』

図書

1968(昭和 43)年 3 月 25 日

197mm × 133mm

昭和 43 年津軽書房刊。長年の調査により忠実に記録された、水没山村の貴重な民俗資料。「湖底の山村」「砂子瀬の民俗」「マタギの聞き書き」「奥目屋の古道」「砂子瀬の昔話」の五項から成る。414 話が採集、文学的な香りに満ち、近來ますます評価を高めている。